

東海大学秋学期短期留学生が北海道開発局を訪れました。

令和元年11月11日に東海大学秋学期短期留学生（スウェーデンヨーテボリ大学7名、アメリカハワイ大学3名）が、北海道開発局を訪れました。当該留学生は約2か月半にわたり東海大学北海道キャンパスに滞在し、日本語や日本文化を学びます。

【講義の様子】



今回の訪問では、北海道についてより深く理解するため、北海道開発の歴史や政策について、開発計画課国際室の大泉上席より講義を行いました。

講義中は終始メモを取りながら熱心に耳を傾けており、北海道の人口減少や高齢化について関心を得た留学生が多く、日本の結婚制度や移民に対する考え方などの質問がなされ、活発な議論がなされました。

また、北海道開発予算についても日本の他地域とは異なる一括計上について強い興味を示していました。

【表敬の様子】



北海道開発局次長表敬では、津垣局次長から北海道開発事業の成果や、現在の北海道の強みである「食」と「観光」について説明し、留学生からは日本語で自己紹介していただきました。

留学生の皆さんは日本に来てまだ1か月ほどでしたが、自分の名前や家族のこと、北海道に来て感じたこと、なぜ日本語を勉強しようと思ったのかなど、日本語でお話ししていただきました。



また、津垣局次長からのスウェーデンやハワイと北海道の違いは具体的にどのようなところかという質問に対して、「北海道は食べ物やお酒が美味しい」、「道にゴミがほとんど落ちておらず町がきれい」、「人が優しい」、「自然が美しい」と言った回答がなされた一方で、「市内移動する際の交通費が高い」、「税金は日本の方が安い、私立の学校も多いので教育費が高い」という学生らしい意見も述べられました。

これらの質問のほかにも、スウェーデン、ハワイにおける都市部への人口集中問題や移民問題についても紹介いただき、活発な意見交換となりました。



今後、今回訪問された留学生の皆様が活躍されることを願っております。